

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | キャリアデザイン | 科目区分 | 一般教養科目 | |
|---|--|------------|---------------|--------|
| 履修期間 | 前期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数・回(実日程) | 2単位 | 16回 |
| 設置学科・コース | ファッション造形科デザイナーコース ・パタンナーコース、専攻科 | 対象課程 | 専門課程・応用課程 | |
| 教員 | 花園 和年 | 授業担当・外部講師 | なし | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| 就職活動のために必要なマナー、知識の習得。業界理解、企業理解のためにも企業説明会の校内開催を中心として企業と学生の接触の場を増やすことにより、企業選択の機会を増やすとともに、選考対策の場としても活用。就職後、5年先、10年先のキャリアプラン作成の基礎となるキャリアデザインシートの作成。就職活動を前提としながら、社会人としてのキャリア設計を長期的に考え、将来を見据えるコンパスの作成 | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| 1、自己分析 エントリーシート、履歴書作成 内容面談 2、面接、グループディスカッション対策 3、敬語、マナー、SPI対策 4、キャリアデザインシート作成 | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 講義＋演習(グループワーク、ロールプレイング含む) | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | 本年の就職活動状況解説・企業紹介 | | | 2.5時間 |
| 2 | エントリーシート・履歴書作成 1 自己PR,長所短所の記入(自己分析に基づく、自己分析指導) | | | 2.5時間 |
| 3 | エントリーシート・履歴書作成 2 志望動機 | | | 2.5時間 |
| 4 | エントリーシート解説・面談 | | | 2.5時間 |
| 5 | 企業説明会① 会社説明、職業人のプロたる企業人との接触による自己啓発、採用担当からの就職指導 | | | 2.5時間 |
| 6 | グループディスカッション 1 チームを変えながら複数回練習、会議、プレゼンテーションの学習 | | | 2.5時間 |
| 7 | グループディスカッション 2 様々な企業で実施されたディスカッションテーマに挑戦・発表・講評 | | | 2.5時間 |
| 8 | 企業説明会② 会社説明、企業人事担当による就活指導 | | | 2.5時間 |
| 9 | 敬語・マナー習得 1 敬語、訪問時、面接、電話対応、就職後の対応含む | | | 2.5時間 |
| 10 | 敬語・マナー習得 2 ビジネスマナー、社会人常識、会議、商談対応 | | | 2.5時間 |
| 11 | SPI対策 言語・非言語・一般常識 | | | 2.5時間 |
| 12 | 面接練習 グループ面接対策 個人面接対策 | | | 2.5時間 |
| 13 | キャリアデザインシート作成 現状分析 5年後、10年後を見据えたキャリアプラン作成 | | | 5時間 |
| 14 | 期末試験 | | | 2.5時間 |
| 15 | 試験内容解説、面談 | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 40時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 修了試験(敬語、一般常識、キャリアデザイン) エントリーシート キャリアデザインシート | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| 日常点(授業参加、態度、出席率)1/3 小課題＋プレゼンテーションの平均評価1/3、修了試験1/3 出席率一定以下(3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 担当教員による、27卒用最新就職情報の毎回の提供 企業よりの提供資料の有効活用 キャリアデザインシート使用 「自立へのキャリアデザイン」旦まゆみ著 | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 明治大学卒 テキスタイル企画、MD12年(ニット、合織、プリント) 海外製品バイヤー20年 | | | 実務家教員 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 体育Ⅲ | 科目区分 | 一般教養科目 | |
|---|---------------------------------|-----------|--------|--------|
| 履修期間 | 特別講座(年間スケジュールによる) | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 選択 | 単位数・(実日程) | 1単位 | 2回 |
| 設置コース | 全学科 | 対象課程 | 全課程 | |
| 教員 | 実行委員教職員 | 授業担当・外部講師 | なし | |
| 授業の概要、科目のねらい | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・チームでの協働を通じ、コミュニケーション力とリーダーシップを育成する ・身体活動を通じて健康的な生活習慣の重要性を理解する ・イベント企画・運営に関わる体験から、主体性・責任感を養う | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>学生主体のスポーツイベント(運動会等)を通じて、体力向上とともにコミュニケーション能力や協働性を育むことを目的とする。(種目はリレー、綱引き、大縄跳びなど。学生は当日の競技参加に加え、事前準備や後日の振り返りレポートの作成を行う)</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 『チームビルディング研修』体験型特別授業 本科目における事前準備期間の学修は、学生による組織的活動を中心とするが、教員の指導・管理のもとで計画的に実施される。教員は実行委員会を随時召集し、活動計画の確認、進捗管理、安全配慮に関する指導を行い、学生の活動が教育目標に沿って適切に進行するよう統括する。これにより、時間割外での活動を含めつつも、正課授業としての指導性、双方向性、評価性を確保している。 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 課外時数 |
| 1 | ガイダンス／運動体育科目としての位置づけ(心身成長と組織形成) | | | 3時間 |
| 2 | 身体理解と他者認識(心身身体能力、集団における多様性理解) | | | 3時間 |
| 3 | 参加関与と役割意識(実行委員会編成) | | | 3時間 |
| 4 | コミュニケーション(チーム編成・信頼関係構築) | | | 3時間 |
| 5 | スポーツイベント企画立案(心身負荷と安全性配慮した競技設定) | | | 3時間 |
| 6 | 運動会企画立案(自立主体性と競技種目バランス、組織運用) | | | 3時間 |
| 7 | 調整力形成(意見調整・合意形成) | | | 3時間 |
| 8 | 事前準備(用具・進行確認) | | | 3時間 |
| 9 | スポーツイベント実施(競技参加) | | | 3時間 |
| 10 | 身体的負荷・心理的反応の振り返り | | | 3時間 |
| 11 | 改善計画策定(発展・反省会) | | | 3時間 |
| 12 | 運動会事前準備(心身のセルフマネジメント) | | | 3時間 |
| 13 | 運動会実施(競技参加) | | | 5時間 |
| 14 | 健康意識の定着(心身成長の振り返り) | | | 2時間 |
| 15 | 今後の学生生活への活用(振り返りレポート) | | | 2時間 |
| 課題成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| <p>実行委員会議事録 振り返りレポート</p> | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <p>授業・行事への参加態度:1/3、組織活動・役割遂行:1/3、振り返りレポート:1/3 無断欠席は単位不認定(やむを得ない場合は別課題による補填) レポート未提出は単位不認定</p> | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| <p>スポーツ・レクリエーション事典 著:日本レクリエーション協会</p> | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| | | | | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| | | | | |
|--|---------------------------------|------------|--------|--------|
| 授業科目名 | 服飾造形実習Ⅴ | 科目区分 | 職業専門科目 | |
| 履修期間 | 前期 | 履修要件 | あり | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 2単位 | 35回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 山下節子 | 授業担当・外部講師 | | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>本授業は、1・2年次に習得した縫製・基礎製図力を基盤に、3年次ではより高度なデザインのパターン制作と応用製図に取り組む。軽衣料・中衣料・重衣料それぞれの素材特性を理解し、素材と構造の関係を踏まえた立体的な設計力を養成。デザイン意図を的確に形へと落とし込む技術力と表現力を高め、実践的なものづくり力の向上を目指す</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>各自のデザイン意図やコンセプトを的確に理解・分析し、それを具体的なパターンへと展開し、完成作品として自立して制作できる力量を身につけることを到達目標とする。加えて、軽衣料・中衣料・重衣料など多様な素材特性に応じた縫製技術と構造理解を習得し、素材に適した美しいシルエットと完成度の高い仕上がりを実現できる実践力を養う</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 参考作品の展示、板書及び部分制作の解説、個別指導 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時間 |
| 1 | ブリーツスカートの基礎製図を復習し、展開方法と構造理解を深める | | | 5時間 |
| 2 | 各自のデザインを設定し、実寸に基づいたスカート製図を行う | | | 5時間 |
| 3 | 製図内容を確認・修正し、用尺を算出後、適切な生地を選定購入する | | | 5時間 |
| 4 | パターンを清書し地の目を確認後、正確に裁断作業を行う | | | 5時間 |
| 5 | 裾上げ印付け、襷折り、明き処理、ダーツ縫製まで行い提出する | | | 9時間 |
| 6 | 前期ショーに向けテーマ設定を行い、作品デザイン画を制作する | | | 5時間 |
| 7 | 郊外見学を通し素材や市場動向を学び、企画力を高める | | | 5時間 |
| 8 | ピギーズトワルの組み立て方法を理解し、制作工程を確認する | | | 5時間 |
| 9 | 前期ショー作品とピギーズ制作を進め、トワルで形を確認する | | | 5時間 |
| 10 | 原型を細部までチェックし、課題を整理してパターン修正を行う | | | 5時間 |
| 11 | 製図からパターン完成後、本仮縫いを行い全体バランスを確認する | | | 5時間 |
| 12 | 縫製の仕上がりを確認し、強度や美しさを意識して縫製を進める | | | 9時間 |
| 13 | 作品仕上げ確認後、ラグランコートの製図と用尺算出を行う | | | 5時間 |
| 14 | ラグランコートの地の目や厚みを考慮し慎重に裁断する | | | 5時間 |
| 15 | 重衣料に適した工程で縫製し、最終仕上げまで完成させる | | | 9.5時間 |
| 合計時数 | | | | 87.5時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| ブリーツスカート、薄地ドレスシャツ、前期ショー作品 | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| 授業における態度 1/3,筆記試験1/3,提出物評価 1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 「服飾教本 婦人服・男子服 上下巻」池田淑子、製図ノート | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 学習院大学卒業文化学院デザイン科卒業 服飾教育実66年 専門教員 教務部 教私與資格取得 | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 服飾造形実習VI | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|--|----------------------------------|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 後期 | 履修要件 | あり | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 3単位 | 39回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 山下 節子 | 授業担当・外部講師 | | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>本授業は、1・2年次に習得した縫製・基礎製図力を基盤に、3年次ではより高度なデザインのパターン制作と応用製図に取り組む。軽衣料・中衣料・重衣料それぞれの素材特性を理解し、素材と構造の関係を踏まえた立体的な設計力を養成。デザイン意図を的確に形へと落とし込む技術力と表現力を高め、実践的なものづくり力の向上を目指す</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>各自のデザイン意図やコンセプトを的確に理解・分析し、それを具体的なパターンへと展開し、完成作品として自立して制作できる力量を身につけることを到達目標とする。加えて、軽衣料・中衣料・重衣料など多様な素材特性に応じた縫製技術と構造理解を習得し、素材に適した美しいシルエットと完成度の高い仕上がりを実現できる実践力を養う</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 参考作品の展示、アイテムの工程を理解させる、「部分縫い」の指導 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | 卒業制作の各自デザインを提出し、コンセプトや構成を講評・検討する | | | 5時間 |
| 2 | コート制作に向け縮地処理と地の目確認を行い、素材特性を理解する | | | 5時間 |
| 3 | パターンを確認後、厚地特有の扱いに注意して正確に裁断する | | | 5時間 |
| 4 | 重衣料の工程に沿って縫製し、完成後に作品として提出する | | | 12.5時間 |
| 5 | 卒業制作モデルを採寸し、体型に合わせた原型を作成する | | | 5時間 |
| 6 | デザインに基づき製図を行い、トワルを組んで立体確認する | | | 5時間 |
| 7 | トワルで仮縫いを実施し、シルエットや分量を細部まで検証する | | | 5時間 |
| 8 | 仮縫い結果を反映し、パターン修正と展開作業を行う | | | 5時間 |
| 9 | 修正済みパターンで本番生地を裁断し、精度を高める | | | 12.5時間 |
| 10 | 本縫い工程に入り、強度と美しさを意識して丁寧に縫製する | | | 12.5時間 |
| 11 | 試着により全体バランスや可動域を確認し、課題を整理する | | | 5時間 |
| 12 | 作品世界観に合わせた小物を制作し、完成度を高める | | | 5時間 |
| 13 | 全体の仕上がりを最終チェックし、細部まで確認する | | | 5時間 |
| 14 | 指摘箇所を修正し、完成度をさらに高める調整を行う | | | 5時間 |
| 15 | 卒業制作作品を最終提出し、講評を通して成果を確認する | | | 5時間 |
| 合計時数 | | | | 97.5時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 重衣料(厚地コート)、卒業制作テスト | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| 授業における態度 1/3,筆記試験1/3,提出物評価 1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| モードエモード等海外、国内ファッション誌、「服飾教本 婦人服・男子服 上下巻」池田淑子、工程プリント | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 学習院大学卒業文化学院デザイン科卒業 服飾教育実66年 専門教員 教務部 教私與資格取得 | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | コスチュームデザイン論 | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|--|---|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 後期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 2単位 | 16回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 鷲 典子 | 授業担当・外部講師 | | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>歴史・文化・舞台・映像・イベントなど多様な領域での作品事例などを通して衣装デザインの役割と表現手法を学ぶ。 世界中の歴史、劇場、カーニバルなどパワポを使い学ぶ。 舞台衣裳の仕事の流れ、またデザイン画の描き方などを学ぶ。</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>多国のカーニバル・イベントのデザインを学ぶことができる。 またそのバリエーションデザイン画を提出してもらう。 世界の劇場を学ぶことができる。 国内の大手劇団の演目等を学ぶことができる</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| <p>パワポ資料を使い講義をする 学んだテーマのバリエーションのデザイン画を描いてプレゼンテーションを行う</p> | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | 授業スケジュールの説明/演劇業界の仕組み、仕事を受ける、委託する講義 | | | 2.5時間 |
| 2 | 演劇の歴史、世界の劇場について、日本国内の劇場の紹介についての講義 | | | 2.5時間 |
| 3 | ベネチアカーニバルについての講義/デザインの特徴、画像での紹介バリエーションのデザイン画を課題 | | | 2.5時間 |
| 4 | リオのカーニバルについての講義/デザインの特徴を学ぶ、バリエーションのデザイン画を課題 | | | 2.5時間 |
| 5 | 海外研修/現地のアトリエ訪問見学、海外ブランドの作品に触れる | | | 2.5時間 |
| 6 | オペラについて/歴史、演目、オペラ歌手、演目によるデザインの特徴についての講義 | | | 5時間 |
| 7 | オペラについて/各演目のバリエーションのデザイン画を課題 | | | 2.5時間 |
| 8 | 歌舞伎について/日本の劇場、歴史、演目、歌舞伎役者講義/代表的な演目のバリエーションのデザイン画を課題 | | | 2.5時間 |
| 9 | 劇団四季についての講義/劇団四季「ウィキッド」についてストーリー、衣装デザインについての講義 | | | 2.5時間 |
| 10 | 劇団四季「アリエル」について/ストーリー、衣装デザインについての講義 | | | 2.5時間 |
| 11 | 劇団四季「アリエル」について/バリエーションのデザイン画を課題 | | | 2.5時間 |
| 12 | 劇団四季「美女と野獣」について/バリエーションのデザイン画を課題 | | | 2.5時間 |
| 13 | 劇団四季「アナと雪の女王」について/ストーリー、衣装デザインについての講義 | | | 2.5時間 |
| 14 | 宝塚についてその歴史と劇場、代表作、キャストについての講義 | | | 2.5時間 |
| 15 | 試験日 | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 40時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 各テーマに沿ったデザイン画の提出 プレゼンテーション | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <p>試験(筆記)1/3 デザイン画、課題評価(内容に沿ったデザイン画、バランス力)1/3 日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3</p> | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| オリジナルパワーポイント資料 | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内コレクションブランドでのデザイナー、パタンナー職 / コスチュームデザイナー | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | マーケティング | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|--|----------------------------|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 前期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 2単位 | 18回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 石川誠 | 授業担当・外部講師 | | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| ファッション業界におけるマーケティングの基本概念(STP・4P・消費者行動)を理解し、実在ブランドを題材に簡単なマーケティングプランを立案できる力を養う | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基本概念(4P、STP、消費者行動モデル)を説明し、アパレル事例に適用できる。 ・ブランドポジショニングマップを作成し、自社ブランドの競争優位性を分析できる。 ・デジタルツール(Google Analytics、SNSインサイト)を活用したKPI分析と改善提案ができる。 ・ケーススタディを通じて、売上低迷やトレンド変化へのマーケティング対応策を議論できる。 ・マーケティング施策の成果をレポート化し、プレゼンテーションで説得力を持って伝えられる | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 講義、ブランド事例分析、グループワーク、プレゼンテーションを組み合わせたアクティブラーニング形式とする。 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | オリエンテーション/マーケティングとは何か | | | 2.5時間 |
| 2 | 市場と消費者を知る①:消費者行動の基礎 | | | 2.5時間 |
| 3 | 消費者行動論②:セグメンテーション | | | 2.5時間 |
| 4 | 4P(製品)プロダクト戦略 | | | 5時間 |
| 5 | 4P(価格)プライス戦略 | | | 5時間 |
| 6 | 4P(流通)プレイス戦略 | | | 5時間 |
| 7 | 4P(プロモーション)プロモーション戦略 | | | 2.5時間 |
| 8 | ブランド事例研究①(カジュアルSPA) | | | 2.5時間 |
| 9 | ブランド事例研究②(セレクト/デザイナーズ) | | | 2.5時間 |
| 10 | 自分たちのブランド企画①:ターゲット設定とコンセプト | | | 2.5時間 |
| 11 | 自分たちのブランド企画②:4P設計 | | | 2.5時間 |
| 12 | ビジュアルとSNSプラン作成 | | | 2.5時間 |
| 13 | グループプレゼン準備 | | | 2.5時間 |
| 14 | グループプレゼンテーション実施 | | | 2.5時間 |
| 15 | まとめ/フィードバック個人課題(ペルソナシート) | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 45時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 中間テスト、課題作成・コンテンツ内容(プレゼンテーション力含む) | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・出欠率:1/3 ・課題提出(ワークレポート、プレゼンテーション等):1/3 ・終了テスト:1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 日本ファッション教育振興協会発行 ファッションビジネス2級 新版、ファッションビジネス3級(マーケティングカテゴリー)、ゼロからわかる!ビジネスで使いこなす!マーケティング大全(中川 功一著 ナツメ社) | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内デザイナーブランドへ総合職入社。退職後、渡英、ロンドン・カレッジ・オブ・ファッションにてファッションマーケティング/プロモーションを専攻。小売/卸営業、バイヤー、マーチャンダイザー、商品部長/営業部長を歴任。□ | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 服飾製図Ⅲ | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|---|---------------------------------|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 前期 | 履修要件 | あり | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 2単位 | 35回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 山下 節子 | 授業担当・外部講師 | | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>本授業は、1・2年次に修得した基礎製図力を土台に、デザイナーコース・パタンナーコース・衣装製作コースの3年生を対象として、より高度で複雑なデザインの製図技術を習得することを目的とする。立体的構造や特殊ディテール、素材特性を踏まえたパターン展開を学び、デザイン意図を正確に形へと落とし込む応用力と実践力を養う。現場で通用する精度と表現力の向上を目指す</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>到達目標は、複雑なデザインや高度なディテールを正確に製図へ落とし込み、意図を論理的に説明できる力を身につけることである。素材特性や縫製工程を踏まえた実践的パターン設計力、修正対応力、納期を意識した作業管理能力を養う。現場で即戦力として通用する判断力・応用力・コミュニケーション力を備え、社会で活用できる専門技術の確立を目指す</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 参考作品の展示、枝書での説明、個人指導 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時間 |
| 1 | ドルマンスリーブ・基礎型製図・コピーデザインアイテム | | | 2.5時間 |
| 2 | 各自製図法でドルマン展開し、トワル組みと講評実施 | | | 10時間 |
| 3 | 修正パターン作成と完成写真を添えて提出確認 | | | 5時間 |
| 4 | 春夏コレクションから2点抽出し資料分析しハンガーイラスト化する | | | 2.5時間 |
| 5 | 実物大マスターパターン製図を2点行う | | | 10時間 |
| 6 | マスターパターンによるトワル組み検証 | | | 10時間 |
| 7 | ピギーズへのパターン割り振り調整作業 | | | 5時間 |
| 8 | モデル採寸を行い個別原型を作成する | | | 5時間 |
| 9 | ピギーズパターンを理論的に展開作成 | | | 10時間 |
| 10 | ピギーズパターンでトワル組み検証 | | | 5時間 |
| 11 | トワル仮縫いにより立体バランス確認 | | | 7.5時間 |
| 12 | 理解度確認テストで製図知識を整理 | | | 2.5時間 |
| 13 | 各自オリジナル原型を精度高く作成 | | | 2.5時間 |
| 14 | 第2原型を試着し補正・完成度向上 | | | 5時間 |
| 15 | ラグランコートの応用製図を習得 | | | 5時間 |
| 合計時数 | | | | 87.5時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| コレクションのコピー(パターン、シーチング組み)・上級製図パターン制作 | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| 授業における態度 1/3, 筆記試験1/3, 提出物評価 1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| モードエモード等海外国内ファッション誌、「服飾教本 婦人服・男子服 上下巻」池田淑子、各種プリント | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 学習院大学卒業文化学院デザイン科卒業 教員資格取得 専門教員 服飾教育実務歴66年 | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 服飾製図Ⅳ | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|---|---------------------|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 後期 | 履修要件 | あり | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 3単位 | 39回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 山下 節子 | 授業担当・外部講師 | | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>本授業は、1・2年次に修得した基礎製図力を土台に、デザイナーコース・パタンナーコース・衣装製作コースの3年生を対象として、より高度で複雑なデザインの製図技術を習得することを目的とする。立体的構造や特殊ディテール、素材特性を踏まえたパターン展開を学び、デザイン意図を正確に形へと落とし込む応用力と実践力を養う。現場で通用する精度と表現力の向上を目指す</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>到達目標は、複雑なデザインや高度なディテールを正確に製図へ落とし込み、意図を論理的に説明できる力を身につけることである。素材特性や縫製工程を踏まえた実践的パターン設計力、修正対応力、納期を意識した作業管理能力を養う。現場で即戦力として通用する判断力・応用力・コミュニケーション力を備え、社会で活用できる専門技術の確立を目指す</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 参考作品の展示、解説、アイテムの工程を理解させる「部分縫い」の指導 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時間 |
| 1 | コートパターン制作と応用展開技術習得 | | | 10時間 |
| 2 | 仮縫い実施と縫製工程の実践確認 | | | 10時間 |
| 3 | フレンチスリーブ①②板書解説と製図演習 | | | 7.5時間 |
| 4 | フレンチスリーブ③製図と部分縫い実習 | | | 5時間 |
| 5 | スタンドカラー構造理解と製図展開 | | | 5時間 |
| 6 | 卒業制作モデル採寸と原型作成実施 | | | 5時間 |
| 7 | 作品製図とトワール組み仮縫い検証 | | | 5時間 |
| 8 | パターン修正展開と材料選定購入 | | | 5時間 |
| 9 | 本裁断を行い正確な裁断技術習得 | | | 5時間 |
| 10 | 本格縫製工程に沿った制作開始 | | | 5時間 |
| 11 | 本縫い修正を重ね完成度向上 | | | 10時間 |
| 12 | 本縫い最終調整と仕上げ作業 | | | 10時間 |
| 13 | 作品に合わせた小物制作実習 | | | 5時間 |
| 14 | 最終チェックと総合バランス確認 | | | 5時間 |
| 15 | 完成作品提出と講評実施 | | | 5時間 |
| 合計時数 | | | | 97.5時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 袖と衿のバリエーション、重衣料、卒業制作 | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| 授業における態度 1/3,筆記試験1/3,提出物評価 1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| モードエモード等海外国内ファッション誌、「服飾教本 婦人服・男子服 上下巻」池田淑子、各種プリント | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 学習院大学卒業文化学院デザイン科卒業 教員資格取得 専門教員 服飾教育実務歴66年 | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | アパレルCADⅢ | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|---|--|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 前期 | 履修要件 | あり | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 1単位 | 17回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | リビ 裕子 | 授業担当・外部講師 | なし | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| CADは、Computer Aided Design の略で、コンピューターによる設計という意味です。よって、設計図作成の効率化や正確性の向上を目指し、殆どの企業で活用されています。授業では実践的なスキルを身につける為に、実務を想定した練習や効率良くキーボード操作が出来るスキルを身に付けていきます。 | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・アパレルCADは、ショートカットキーの扱いに慣れて、全てを完全に習得をする。 ・2Dの平面製図の基本を学びながら、最も少ないキーボード操作でパターンを完成させるスキルを身に付けて行く。 | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・基本課題のアイテムのシルエットを製図しながらショートカットキーの操作を把握していく。 ・そこから更に、各自オリジナルデザイン用のマニピュレーション技術を覚え、パターンアレンジを行なっていく。 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | CADの機能説明及びアパレル企業で求められているテクニックを説明 | | | 2.5時間 |
| 2 | キーボード操作の基本を覚えながら、製図も同時に学習 | | | 2.5時間 |
| 3 | 基本のキーボード操作の反復練習、入力を別のキーボード操作でも可能にするための演習 | | | 2.5時間 |
| 4 | 製図の各シチュエーションで、効率アップのためのキーボード選択の学習、理解度向上、反復練習 | | | 2.5時間 |
| 5 | 基本アイテムの製図とキーボードの把握レベルチェックのテスト | | | 2.5時間 |
| 6 | 基本アイテムの製図とキーボードの把握レベルチェックのテストの結果報告・復習 | | | 2.5時間 |
| 7 | 軽衣料のアイテムの製図通じ、キーボード操作の反復、操作能力の向上 | | | 2.5時間 |
| 8 | CADでの製図方法の迅速化、効率増進のための練習 | | | 5時間 |
| 9 | 軽衣料で、各自オリジナルデザインの製図を作成 | | | 5時間 |
| 10 | 完成した製図を元に、完成パターンの作成 | | | 2.5時間 |
| 11 | CADでのパターン完成チェック方法の演習 | | | 2.5時間 |
| 12 | パターン修正の必須条件を学び、最初の製図をする際に注意すべきCAD操作の学習 | | | 2.5時間 |
| 13 | CADで工業用パターンを作成 | | | 2.5時間 |
| 14 | 工業用パターンの必須条件(完成パターン修正の正確さ)、CAD操作の重要性を実演習より学ぶ | | | 2.5時間 |
| 15 | 期末試験 | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 42.5時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題デザインの完成パターン ・キーボード把握確認試験 ・オリジナルデザインの完成パターン | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・試験(筆記)1/3 ・作品、課題評価(作品の製図力、スピード、応用力)1/3 ・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 日本ファッション教育振興協会パターンメイキング検定2・3級教本、CAD指導プリントテキスト | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パタンナー職に就くその後、専門学校の教職に45年以上従事 | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | アパレルCADIV | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|---|--|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 後期 | 履修要件 | あり | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 1単位 | 16回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | リビ 裕子 | 授業担当・外部講師 | なし | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| CADは、Computer Aided Design の略で、コンピューターによる設計という意味です。よって、設計図作成の効率化や正確性の向上を目指し、殆どの企業で活用されています。授業では実践的なスキルを身につける為に、実務を想定した練習や効率良くキーボード操作が出来るスキルを身に付けて行きます。 | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・更に複雑なショートカットキーの扱いに慣れて、全てを完全に習得をする。 ・応用デザインの平面製図を学びながら、最も少ないキーボード操作でパターンを完成させるスキルを身に付けて行く。 | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・応用課題のアイテムのシルエットを製図しながら、更に高度なショートカットキーの操作を把握していく。 ・そこから更に、各自オリジナルデザイン用のマニピュレーション技術を覚え、パターンアレンジを行なっていく。 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | アパレル企業で求められている応用テクニックを説明 | | | 2.5時間 |
| 2 | キーボード操作の応用を覚えながら、製図も同時に学んでいく。 | | | 2.5時間 |
| 3 | 複雑なのキーボード操作を繰り返しやる事で、同じ事が別のキーボード操作でも可能なことを知る。 | | | 2.5時間 |
| 4 | 製図の各シチュエーションで、どのキーボードを使用したらより効率がアップするか理解出来る。 | | | 2.5時間 |
| 5 | 応用アイテムの製図とキーボードの把握レベルチェックのテストを行う。 | | | 2.5時間 |
| 6 | 応用アイテムの製図とキーボードの把握レベルチェックのテストの結果報告・復習 | | | 2.5時間 |
| 7 | 重衣料のアイテムの製図を学びながら段々とキーボード操作の使い分けを把握してくる。 | | | 2.5時間 |
| 8 | CADでの製図方法が早くなり、効率がアップしてくる。 | | | 2.5時間 |
| 9 | 重衣料で、各自オリジナルデザインの製図を試みる。 | | | 2.5時間 |
| 10 | 製図をしたら、それを完成パターンにまで作成する。 | | | 2.5時間 |
| 11 | CADで行う、パターン完成チェックの方法を学ぶ | | | 2.5時間 |
| 12 | パターン修正とは何をしなければならないかに気付き、最初の製図をする際に注意すべきCAD操作を考える。 | | | 2.5時間 |
| 13 | CADで工業用パターンを作成する。 | | | 5時間 |
| 14 | CADで縫製指示書の作成を学ぶ | | | 2.5時間 |
| 15 | 期末試験 | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 40時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題デザインの工業用パターン ・試験用課題デザインの製図・完成・工業用パターン提出 ・オリジナルデザインの完成・工業用パターン・縫製指示書 | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・試験(筆記)1/3 ・作品、課題評価(作品の製図力、スピード、応用力)1/3 ・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 日本ファッション教育振興協会パターンメイキング検定2・3級教本、CAD指導プリントテキスト | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パタンナー職に就く。その後、専門学校で教職に45年以上従事している。 | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 3DモデリングⅡ | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|--|--|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 後期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 1単位 | 16回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | リビ 裕子 | 授業担当・外部講師 | なし | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>CADは、Computer Aided Design の略で、コンピューターによる設計という意味です。よって、設計図作成の効率化や正確性の向上を目指し、殆どの企業で活用されています。授業では実践的なスキルを身につける為に、2Dから3Dの操作に繋げていき、立体映像を見ながらシルエットアレンジが出来るスキルを身に付けて行きます。</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・3Dモデリングで立体的なシルエットを確認しながら、パターン展開の扱いを把握する。 ・応用デザインの平面製図を学びながら、3Dでも高度なテクニックを身に付けるようになる。 | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・2Dや手引きで製図をしたものを正確にトレースをする訓練をしながら、短時間で修正するスキルを磨いていく。 ・そこから更に、各自オリジナルデザイン用のマニピュレーション技術を駆使して、高度なシルエットアレンジを行なっていく。 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | 3Dモデリングはデジタル空間で立体映像が作られ、3次元の角度からシルエットチェックをする事を解説 | | | 2.5時間 |
| 2 | 3Dモデリングの実像を見ながら、パターンアレンジ方法の解説 | | | 2.5時間 |
| 3 | 有り型パターンを使用して3Dモデリングを経験 | | | 2.5時間 |
| 4 | 3Dモデリングのパターンをアレンジし、3D上でのモデル変化体験 | | | 2.5時間 |
| 5 | 3Dモデリングの必要条件がCADでのパターン作成、完成パターンの仕上げ、ということを演習を通じ理解度深耕 | | | 2.5時間 |
| 6 | CAD以外の手引きパターン又はドレーピングしたパターンをスキャナーでトレースする方法を学ぶ | | | 2.5時間 |
| 7 | トレースした後のパターン修正のテクニックを学ぶ | | | 2.5時間 |
| 8 | 完成パターンまでの修正・寸法チェックの仕方を覚える | | | 2.5時間 |
| 9 | 3D操作のやり方をもう一度最初から通して行う | | | 5時間 |
| 10 | パターンの縫製工程を知らないと、3D操作ができないことを知る | | | 2.5時間 |
| 11 | 正確な完成パターンと的確な縫製工程を操作してから3D映像に持って行く事が出来る | | | 2.5時間 |
| 12 | 3D映像がチェック出来るようになったら、各自CAD上でパターンアレンジを行なって登録まで持って行く | | | 2.5時間 |
| 13 | オリジナルデザインの3D表現をバリエーションを組んで仕上げて行く | | | 2.5時間 |
| 14 | プレゼンテーションを行い各自研究内容を発表する | | | 2.5時間 |
| 15 | 期末試験 | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 40時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題デザインの完成パターンと3D映像 ・課題パターンのアレンジ展開と3D映像提出 ・オリジナルデザインの完成パターンと3D映像 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・試験(筆記)1/3 ・作品、課題評価(作品の製図応用力、デザイン力)1/3 ・日常点(授業態度、参加姿勢、出席率などの評価項目)1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 資料(ファッション雑誌モードエモードその他、各自選出ブランドの写真)、応用製図プリントテキスト、 | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 文化服装学院卒、アパレル企業にてデザイナー&パタンナー職に就く。その後、専門学校の教職に45年以上従事している。 | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | パターン造形 I | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|--|---|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 前期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 1単位 | 16回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 大森正樹 | 授業担当・外部講師 | | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>既成概念にとらわれない発想をもとに、衿、袖を中心としたオリジナルデザインを構築する 言語化・構造化・立証検証の工程を通して、イメージと構造の関係を理解し、意図を持ってパターン設計ができる力を養う トワル検証と修正を繰り返すことで、客観的視点と問題解決能力を身に付ける</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>衿・袖を中心としたオリジナルデザインを構築できる デザイン意図を言語化し、パターンに変換できる トワル検証を通して修正判断ができる 制作意図を論理的に説明できる</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| <p>「わたしのかたち、衿・袖のかたち」 各自、衿、袖のオリジナルのデザインを考え、パターンを作成し、トワルを作成する トワルの修正を行い、より完成度の高い作品を作り、プレゼンテーションを行う</p> | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | 自己紹介、次回からの講義内容の説明(オリエンテーション) | | | 2.5時間 |
| 2 | すきなもの、ことを考え、抽出し、その感覚を言語化する方法を学ぶ(ワードの理解・分解) | | | 2.5時間 |
| 3 | 言語化したワードを再構築してデザインのベースとなるコンセプトを考える(デザイン画制作) | | | 2.5時間 |
| 4 | 既成概念にとらわれない自由な発想をパターン作図で表現する(パターン設計) | | | 2.5時間 |
| 5 | パターンの構造を理解して検証する力をつける(構造理解の深化) | | | 2.5時間 |
| 6 | デザインの意図がパターンに変換されているかを確認する(パターンの完成) | | | 2.5時間 |
| 7 | シーチングで組み立て、立体のテクニックを学ぶ(トワル組み) | | | 2.5時間 |
| 8 | 組み立てたトワルがイメージ通りに出来上がっているかを確認する(トワル検証) | | | 2.5時間 |
| 9 | イメージとの誤差を客観的に理解してパターンを修正する(パターン補正) | | | 2.5時間 |
| 10 | 修正パターンが的確であるかを確認するために再トワルを作成する(トワルの再構築) | | | 2.5時間 |
| 11 | 精度の高い再トワルを作成することを通して縫製のテクニックを学ぶ(縫製技術確認) | | | 2.5時間 |
| 12 | 仕上がりのイメージを継続しながら再トワルの精度を高めていく(最終組み立て) | | | 5時間 |
| 13 | 再トワルの完成を目指す(完成) | | | 2.5時間 |
| 14 | 今までの工程を振り返り、次回のプレゼンまでのまとめをする(プレゼン準備) | | | 2.5時間 |
| 15 | プレゼンテーション発表を通して自分の考えを他者に伝える(プレゼン発表) | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 40時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 作成したトワルを最終成果物とする(自分の考え、価値観を伝える) | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| 制作課程(取り組み姿勢・修正対応、プレゼン力)1/3、成果物完成度1/3、日常点1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 『近藤れん子の婦人服造形ポイント』 源流社 | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内ブランドでのパタンナー職 | | | 実務家教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | パターン造形Ⅱ | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|---|---|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 後期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 1単位 | 16回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 大森正樹 | 授業担当・外部講師 | | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| 既製のシルエットを分析できる 対応するパターン設計ができる トワル検証を通じて修正判断ができる | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| 既存服のシルエットを分析し、構造的に再現できる 寸法・構造を読み取り、パターンに落とし込むことができる トワル検証を通じて修正判断ができる 縫製したトワルの出来栄を客観的にとらえ、改善することができる | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 「かたちの翻訳」 既製服を分析して、その対象となる服からシルエットを理解して型を抜き、パターンに落とし込み、再現する 精度の高いトワルを作成することで縫製のテクニックの向上をはかる | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | 対象となる既製の選定、シルエットの分析をする(分析資料の作成) | | | 2.5時間 |
| 2 | 既成服に使われている実際の付属類を理解、分析する(副資材の知識) | | | 2.5時間 |
| 3 | シルエットを理解して構造をイメージしながら採寸をする(寸法の理解) | | | 2.5時間 |
| 4 | 採寸した数値とシルエットの関係性を理解してパターンを作成する(パターン設計) | | | 2.5時間 |
| 5 | パターンの構造を理解して検証する力を付ける(構造理解の深化) | | | 2.5時間 |
| 6 | シーチングで組み立て、立体のテクニックを学ぶ(トワル組み) | | | 2.5時間 |
| 7 | 組み立てたトワルがイメージ通りに出来上がっているかを確認する(トワル検証) | | | 2.5時間 |
| 8 | 出来上がったトワルと対象となる服のシルエットを確認する(比較検証) | | | 2.5時間 |
| 9 | 再現度の高いトワルを目指してパターンを修正する(パターン補正・仮縫い) | | | 2.5時間 |
| 10 | 修正パターンが的確であるかを確認するために再トワルを作成する(トワルの再構築) | | | 2.5時間 |
| 11 | 縫製工程を考えて、効率の良い作業の順序だてを考える(工程分析) | | | 2.5時間 |
| 12 | 既製服に近い仕様で再トワルを作成する(高度な縫製技術の取得) | | | 5時間 |
| 13 | 作成したトワルと再現の対象になった既製服を比較して、パターンの理解を高める(最終比較) | | | 2.5時間 |
| 14 | 再トワルを実際に着用して再現性を確認する(完成) | | | 2.5時間 |
| 15 | 成果物を全員で確認し合い、他者の作品を読み解く力を養う(振り返り、試着会) | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 40時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 作成したトワルと分析資料を最終成果物とする(対象資料との比較・理解) | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| 制作課程(取り組み姿勢・修正対応)1/3、成果物完成度1/3、日常点1/3 | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 『パターンメイキングの基礎』 小野喜代司 | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内ブランドでのパタンナー職 | | | 実務家教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 生産計画・仕様書II | 科目区分 | 職業専門科目 | |
|---|----------------------------------|------------|--------|--------|
| 履修期間 | 後期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 1単位 | 20回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 吉岡文子 | 授業担当・外部講師 | なし | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| 重衣類を含めた高度な量産化仕様書の作成や生産管理手法を学び、実務レベルでの企画・生産調整力を養成することを目的とする。これにより、卒業後の就業に直結する実務的能力の獲得を目指す。 | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| 製作するアイテム別の生産計画を立て、スケジュールを組むことで納期についての意識付けができる。 縫製や生地・資材に関する情報を理解し仕様書に記載できる。 生地・副資材明細について、それぞれ単価を明確にし、商品原価の算出ができる。 | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 講義(インタラクティブボード、iPadを使用) 各自の作品を企業製品に想定し、生産計画、縫製仕様書作成を行う(MacBook使用) グループワークとしてお互いの作品の採寸や検品を行い、仕様書に反映させる(MacBook使用) | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | 「生産計画の概要」:生産計画の必要性、専門用語など | | | 2.5時間 |
| 2 | 「生産計画書」:生産計画書作成 | | | 2.5時間 |
| 3 | 「縫製仕様書の概要」:仕様書の役割、専門用語など | | | 2.5時間 |
| 4 | 「製品図」:着丈、身巾のバランスやディテール表現復習と製品図応用 | | | 5時間 |
| 5 | 「サイズ表」:各部位のパターン採寸 | | | 5時間 |
| 6 | 「縫製仕様書」:仕様書作成1 | | | 2.5時間 |
| 7 | 「サイズ表」:製品の仕上がり採寸 | | | 5時間 |
| 8 | 「縫製仕様書」:仕様書作成2 | | | 2.5時間 |
| 9 | 「縫製指示」:縫い代の始末方法 | | | 2.5時間 |
| 10 | 「縫製仕様書」:仕様書作成3 | | | 2.5時間 |
| 11 | 「生地・副資材の概要」:副資材表の役割、専門用語など | | | 2.5時間 |
| 12 | 「生地・副資材」:副資材表作成 | | | 2.5時間 |
| 13 | 期末試験学習(復習と質問) | | | 5時間 |
| 14 | 期末試験学習(復習と質問) | | | 5時間 |
| 15 | 期末試験 | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 50時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 第三者が理解できる生産計画書、見やすさと正確な指示が記載された縫製仕様書。 以上はポートフォリオとしても活用できるように資料化する。 重衣類を含めた高度な量産化仕様書作成に関する専門知識の習得と製品コストへの意識付け。 | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| 課題(生産計画書の見やすさと正確さ、縫製仕様書の見やすさと正確さ、最終のコスト計算) 33%、テスト結果 33%、日常点 33% 出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 教員作成テキスト・プリント「アパレル設計実習・アパレル生産実習」日本衣料管理協会 | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内アパレルブランドのデザイナー職、MD職 | | | 実務家教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 卒ショー企画 | 科目区分 | 総合科目 | |
|--|---|------------|----------|--------|
| 履修期間 | 前期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 2単位 | 18回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 石川和男 | 授業担当・外部講師 | 鷺典子、花園和年 | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>学部の枠を超えて履修する学生が、それぞれの専門性を活かしながら卒業制作作品を制作し、最終的にショー形式の作品として発表することを目的とする。</p> <p>ショー全体のデザインテーマを設定し、その枠組みや制作条件を議論・共有、ファッションデザインのジャンル分類、作品のグルーピング、デザインコンセプト形成の理論を学びながら、個々の制作テーマを明確化する。</p> <p>最終的には全体を統合した一つのプレゼンテーションへと構築する。個別制作と協働的プロジェクト運営の両立を学ぶ実践的演習科目である。</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1.ファッションデザインの主要ジャンルおよびその背景や理論的分類を理解 2.自身の卒業制作におけるデザインテーマを論理的に構築・説明 3.制作条件を踏まえた実現可能な作品構想の立案力 4.個別作品を全体ショー構成の中での位置づけ、協働的プロジェクトの参加スキルと個々のプレゼンテーション力を構築 | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| <p>ディスカッション、リサーチ、プレゼンテーション、講評を組み合わせた演習形式。</p> <p>多くを課外時間を使って学生各自の考えや創意意図を生み出し、対面授業時間内では対話的・参加型授業とし、学生同士の自立した意見交換を重視するインディペンデント・スタディ&ディスカッション</p> | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | 「目的と全体像の共有」: | | | 2.5時間 |
| 2 | 「制作条件・制作規定の共有および合意形成を目的とする討議」:希望の聞き取り、改善プロセス | | | 2.5時間 |
| 3 | 「ショーカテゴリーの検討」:デザインの系譜、ジャンル分類の理解 | | | 2.5時間 |
| 4 | 「作品案構築理論」:テーマ、コンセプトメイキング | | | 2.5時間 |
| 5 | 「共通条件討議」:制作上の共通条件(素材、点数、サイズ、表現形式、モデル、制作期間など)の検討 | | | 2.5時間 |
| 6 | 「個人テーマの設定とカテゴリーグループ内ディスカッション」: | | | 2.5時間 |
| 7 | 「制作作品リサーチ」:ビジュアル資料・参考作品分析 | | | 2.5時間 |
| 8 | 「構想の具体化」:視覚資料・素材・制作計画(個人作品企画デザインボード) | | | 2.5時間 |
| 9 | 「グループディスカッション」:個人作品構想をもとにしたディスカッション | | | 2.5時間 |
| 10 | 「グループプレゼンテーション」:グループによるミニテーマ、作品方向性のプレゼンテーション | | | 2.5時間 |
| 11 | 「再検討と全体構成の調整」:グループテーマ、個別デザインの再考察 | | | 5時間 |
| 12 | 「最終プレゼンテーション準備①」:造形デザインのメッセージ、ビジュアルの作成 | | | 5時間 |
| 13 | 「最終プレゼンテーション準備②」:各グループプレゼンツール、ビジュアルの作成 | | | 5時間 |
| 14 | 「最終プレゼンテーション」 | | | 2.5時間 |
| 15 | 「総括」:ショー作品の企画内容に関するペーパーテスト | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 45時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| ポートフォリオ(デザイン思考プロセス記録)、プレゼンツール(ファッションショー作品分析作品)、筆記試験 | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <p>課題(論理的コンセプト説明、デザイン意図、課題全体像、プレゼン力、作品表現の豊かさ):1/3、テスト結果:1/3、日常点:1/3</p> <p>出席率が一定以下(例:3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり</p> | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| <p>ファッションデザイン史、デザイン理論、現代ファッション研究に関する文献をオリジナル教本として提示する。</p> <p>授業内で随時提示する。</p> | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内外ブランドでのデザイナー職 | | | 基幹教員 | 花園和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 修了作品 | 科目区分 | 総合科目 | |
|--|---------------------------------------|------------|----------------|--------|
| 履修期間 | — | 履修要件 | — | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 3単位 | |
| 設置学科・コース | ファッション造形科・専攻科 | 対象課程 | 基礎課程・応用課程 | |
| 教員 | 石川和男 | 授業担当・外部講師 | 鷺典子、花園和年、中島由紀子 | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>基礎課程、応用課程の修了成果として、各自が設定したテーマに基づきファッション作品を制作する課外科目である。企画立案、リサーチ、コンセプト構築、デザイン展開、パターン制作、縫製、フィッティング、ビジュアル表現、展示構成までを一貫して行い、最終的に基礎課程ショー、修了製作ショーにて発表する。</p> <p>主体的な制作活動を通して、専門的技術力、企画力、表現力、問題解決力を総合的に養う。</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>独自の視点に基づいた明確なコンセプトの構築、デザインへ論理的に展開。</p> <p>高度なパターン・縫製技術を用いた制作とプレゼンテーション。</p> <p>総合的な作品発表</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| <p>時間外活動を中心とする卒業制作科目であり、総学修時間225時間のうち大部分を学生の自主制作活動に充てるが、教員は後期間を通して制作計画確認、複数回の中間講評および最終講評を通して指導を行い、制作の質的向上をはかり、製作仕上げに関しては約1週間の集中製作期間をシステムを用いる。</p> <p>学生は事前に科目「卒ショー企画」内で策定された作品デザインのアウトラインに基づき、自律的に制作活動を行う。</p> | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 課外時数 |
| 1 | 「制作計画提出」:制作管理スケジュール案の提出 | | | 10時間 |
| 2 | 「コンセプト再定義面談」:中間チェックとフィードバックの受容 | | | 14時間 |
| 3 | 「概念構造の確認」:デザインの再検討(ビルドアンドクラッシュ) | | | 16時間 |
| 4 | 「素材・技術計画確認」:使用素材・テクニックの検討 | | | 15時間 |
| 5 | 「素材検証」:サンプル提示、素材の表現、意味性とデザインの適合検証 | | | 18時間 |
| 6 | 「試作工程」:計画と実作の差異を記録し、造形意図とのズレを検証 | | | 18時間 |
| 7 | 「検証と試作」:素材、技術サンプル制作による触覚・視覚的検証 | | | 20時間 |
| 8 | 「方向性の確認」:作品衣服としての形状、表現意図の再確認 | | | 14時間 |
| 9 | 「再構築計画」:試作フィードバック反映(対面指導5時間を含む)) | | | 12時間 |
| 10 | 「制作工程①」:創造性、技術的可能性の整合と表現意図の整合性確認 | | | 22時間 |
| 11 | 「制作工程②」:表現技術の有効性、反復性、継続性(対面指導5時間を含む)) | | | 24時間 |
| 12 | 「制作工程③」:造形の精度向上(対面指導5時間を含む)) | | | 24時間 |
| 13 | 「最終制作工程確認」:仕上げまとめ(対面指導5時間を含む)) | | | 12時間 |
| 14 | 「制作記録」:作品仕様書作成 | | | 8時間 |
| 15 | 「教員・外部講評者からの総合批評」(対面指導5時間を含む)) | | | 8時間 |
| 合計時数 | | | | 225時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| <p>最終成果物、中間成果物、制作プロセス記録</p> <p>卒業・終了作品</p> | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <p>作品完成度(構造・素材・仕上げ・創造性・独自性・素材・技術選択の妥当性、表現深化の度合い)</p> <p>プレゼンテーションにおける論理性</p> | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 適宜資料配布 | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内外ブランドでのデザイナー職 | | | 基幹教員 | 花園和年 |

2026専攻科シラバス

| | | | | |
|---|---------------------------------------|------------|------|--------|
| 授業科目名 | 企業連携講座Ⅲ | 科目区分 | 総合科目 | |
| 履修期間 | 前期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 2単位 | 17回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 鷲 典子 | 授業担当・外部講師 | なし | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>企業との連携により、実際の就業現場で求められる経験、知識、およびトレンドとなっている最新技術の習得 学生ならではの柔軟な発想を企業にフィードバック、情報共有し、SDGsをはじめとする現代のファッション産業を取り巻く諸問題に対して共同、連携して解決策を模索する。 作りたいものより着たいもの、着て心地いいもの、自分以外の年代が求めるものの作成を学ぶ(母親を想定)</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>1、個人でアパレルを起業した経験を聴講し、将来起業を目指すために必要な知識、経験、技術、キャリアの学習 2、顧客の要望に応じた、実際の多数の顧客の体系に合わせたパターンの習得 3、作品制作を通じ、多数の顧客に要望される商品の生地を選び方、縫製方法を学び、技術のアップデートに務める</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 講義＋課題作品作成 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | オリエンテーション(企業連携講座とは 連携企業研究 素材解説) | | | 2.5時間 |
| 2 | 講義 小森縫製 | | | 2.5時間 |
| 3 | レポート作成 作品選定 | | | 2.5時間 |
| 4 | パターンの理解 ミセスパターンの需要点の理解 | | | 2.5時間 |
| 5 | リネン素材の理解 型入れ、用尺の理解 | | | 2.5時間 |
| 6 | リネン生地裁断の理解 | | | 2.5時間 |
| 7 | 講義 小森縫製(2回目) 中間チェック 作成のポイント、検品のポイント解説 | | | 5時間 |
| 8 | リネン縫製方法の習得 | | | 2.5時間 |
| 9 | リネン部分縫い 厚手生地の細部の仕上げ | | | 2.5時間 |
| 10 | 修正点チェック、サイズ別パターンの理解 | | | 2.5時間 |
| 11 | 作品仕上げ、レポート作成 | | | 2.5時間 |
| 12 | 講義 小森縫製(3回目) | | | 2.5時間 |
| 13 | 作品最終チェック、検品 | | | 5時間 |
| 14 | 期末試験 | | | 2.5時間 |
| 15 | 試験内容解説、作品順位発表 | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 42.5時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 修了試験(リネン生地基礎知識、ジャケット、縫製) レポート 小森縫製よりの提供生地を使用しての作品制作 | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <p>日常点(授業参加、態度、出席率)1/3 レポート＋作品の平均評価1/3、修了試験1/3 出席率一定以下(3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり</p> | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| <p>担当教員による用意、小森縫製よりの提供資料活用 「既成サイズでは味わえない大人服」村松明美</p> | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内コレクションブランドでのデザイナー・パタンナー職 コスチュームデザイナー | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| | | | | |
|---|---------------------------------------|------------|------|--------|
| 授業科目名 | 企業連携講座Ⅲ | 科目区分 | 総合科目 | |
| 履修期間 | 前期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 2単位 | 17回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 鷲 典子 | 授業担当・外部講師 | なし | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>企業との連携により、実際の就業現場で求められる経験、知識、およびトレンドとなっている最新技術の習得 学生ならではの柔軟な発想を企業にフィードバック、情報共有し、SDGsをはじめとする現代のファッション産業を取り巻く諸問題に対して共同、連携して解決策を模索する。 作りたいものより着たいもの、着て心地いいもの、自分以外の年代が求めるものの作成を学ぶ(母親を想定)</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>1、個人でアパレルを起業した経験を聴講し、将来起業を目指すために必要な知識、経験、技術、キャリアの学習 2、顧客の要望に応じた、実際の多数の顧客の体系に合わせたパターンの習得 3、作品制作を通じ、多数の顧客に要望される商品の生地を選び方、縫製方法を学び、技術のアップデートに務める</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 講義＋課題作品作成 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | オリエンテーション(企業連携講座とは 連携企業研究 素材解説) | | | 2.5時間 |
| 2 | 講義 小森縫製 | | | 2.5時間 |
| 3 | レポート作成 作品選定 | | | 2.5時間 |
| 4 | パターンの理解 ミセスパターンの需要点の理解 | | | 2.5時間 |
| 5 | リネン素材の理解 型入れ、用尺の理解 | | | 2.5時間 |
| 6 | リネン生地裁断の理解 | | | 2.5時間 |
| 7 | 講義 小森縫製(2回目) 中間チェック 作成のポイント、検品のポイント解説 | | | 5時間 |
| 8 | リネン縫製方法の習得 | | | 2.5時間 |
| 9 | リネン部分縫い 厚手生地の細部の仕上げ | | | 2.5時間 |
| 10 | 修正点チェック、サイズ別パターンの理解 | | | 2.5時間 |
| 11 | 作品仕上げ、レポート作成 | | | 2.5時間 |
| 12 | 講義 小森縫製(3回目) | | | 2.5時間 |
| 13 | 作品最終チェック、検品 | | | 5時間 |
| 14 | 期末試験 | | | 2.5時間 |
| 15 | 試験内容解説、作品順位発表 | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 42.5時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 修了試験(リネン生地基礎知識、ジャケット、縫製) レポート 小森縫製よりの提供生地を使用しての作品制作 | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <p>日常点(授業参加、態度、出席率)1/3 レポート＋作品の平均評価1/3、修了試験1/3 出席率一定以下(3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり</p> | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| <p>担当教員による用意、小森縫製よりの提供資料活用 「既成サイズでは味わえない大人服」村松明美</p> | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内コレクションブランドでのデザイナー・パタンナー職 コスチュームデザイナー | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| | | | | |
|--|---|------------|------|--------|
| 授業科目名 | 企業連携講座Ⅳ | 科目区分 | 総合科目 | |
| 履修期間 | 後期 | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 2単位 | 20回 |
| 設置学科・コース | 専攻科 | 対象課程 | 応用課程 | |
| 教員 | 鷲 典子 | 授業担当・外部講師 | なし | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>企業と連携することにより、実際の就業現場で求められる経験、知識、トレンドとなっている技術の習得 パリコレの最新のデザイン、パターンを学び、今後の作品制作の礎とする 工場見学も含めて実際の縫製現場による最新の技術指導</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>1、パリコレ出展作品のデザイン、パターンを学習 2、縫製工場訪問も含めてプロの縫製技術を学ぶ 3、パターンの理解、制作の精度の向上</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 講義＋課題作品作成 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 授業時数 |
| 1 | オリエンテーション(企業解説、パリコレ解説) | | | 2.5時間 |
| 2 | 福新ドレス 講義 実際に販売できる服作り、その注意ポイント パターンのポイント | | | 2.5時間 |
| 3 | 作品選定、生地選定 | | | 5時間 |
| 4 | パターンの理解 コレクション作品の理解 | | | 2.5時間 |
| 5 | 素材、生地の理解 裁断の理解 | | | 2.5時間 |
| 6 | 素材に合わせた縫製方法の理解 | | | 2.5時間 |
| 7 | 福新ドレス 講義 2回目 作品中間チェック | | | 2.5時間 |
| 8 | 工場見学 工程の理解 特殊ミシンの理解 | | | 2.5時間 |
| 9 | 工場見学 分業方法の学習 効率を考えた仕事の進め方 | | | 5時間 |
| 10 | 学んだ縫製方法の活用 | | | 2.5時間 |
| 11 | 作品仕上げ、レポート作成 | | | 7.5時間 |
| 12 | 福新ドレス 講義3 講評 | | | 2.5時間 |
| 13 | 最終チェック 検品 | | | 5時間 |
| 14 | 期末試験 | | | 2.5時間 |
| 15 | テスト内容解説、作品順位発表 | | | 2.5時間 |
| 合計時数 | | | | 50時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 修了試験(リネン生地、ジャケット、縫製) レポート、福新ドレスよりの生地、パターン使用しての作品製作 | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <p>日常点(授業参加、態度、出席率)1/3、レポート＋作品の平均評価1/3、修了試験1/3 出席率一定以下(3分の1以上欠席)であれば自動的に不合格とする場合あり</p> | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| <p>「WWD JAPAN」「パリコレの51人」平山 景子 講師からの資料 連携企業からの資料</p> | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| 国内コレクションブランドでのデザイナー・パタンナー職 コスチュームデザイナー | | | 基幹教員 | 花園 和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 職業人基礎力と協働演習 | 科目区分 | 総合科目 | |
|---|---|------------|------|--------|
| 履修期間 | 在学期間(集中講座) | 履修要件 | なし | |
| 必修・選択 | 必修 | 単位数・回(実日程) | 1単位 | 1～4回 |
| 設置学科・コース | 全学科 | 対象課程 | 全課程 | |
| 教員 | 石川和男 | 授業担当・外部講師 | | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| ファッション産業の実務現場の理解。(展覧会、舞台芸術、物流センター、生産工場など、クリエイティブから生産・配送までの全工程を体験的に把握)ものづくりへの理解と技術的視点の強化。(工場・ワークショップ参加を通じ、素材、加工、工程管理などの実務を知る)文化的背景と表現の関係を学ぶ。 | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| 課題解決型学習(PBL)やサービスラーニングの手法を用い、学内での協働活動を通して、社会で求められる職業人基礎力を身につけることを目的とする。 履修者は在学期間を通じて以下を達成することを目標とする。 ・周囲と協働し、役割を理解して与えられた業務を責任をもって継続的に遂行できる ・社会貢献や組織運営への参画意識を身につける | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| 日常的な学内活動(週番作業、大掃除、行事運営補助等)をPBL課題として位置づけ、サービスラーニングとして評価・単位認定を行う実践型科目である。学生は在学期間を通して、計画・実行・振り返り(PDCA)を繰り返しながら、協働力・責任感・主体性を養う。在学期間を通じて継続的に実施する実践型科目であり、上記15回の授業計画は学修プロセスを示したものである。 | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 課外時数 |
| 1 | 授業の目的、評価方法、履修上の注意の理解。社会人基礎力の解説(前に踏み出す力/考え抜く力/チームで働く力) | | | 3時間 |
| 2 | 学内活動の意義と社会的役割の理解 | | | 3時間 |
| 3 | 協働活動の基礎(週番作業実践) | | | 3時間 |
| 4 | 協働活動における課題認識(作業効率や環境改善に関する気づきの共有) | | | 3時間 |
| 5 | 作業の実践(協働行動の定着) | | | 3時間 |
| 6 | 協働作業の課題発見と改善検討 | | | 3時間 |
| 7 | 計画的な協働活動の実践(協力して目標を達成す経験の蓄積) | | | 3時間 |
| 8 | 大掃除等のプロジェクト計画立案(集団内の役割について) | | | 3時間 |
| 9 | 協働活動の実践と調整 | | | 3時間 |
| 10 | 社会人基礎力の自己評価(中間成果確認) | | | 3時間 |
| 11 | サービスラーニングとしての位置づけ理解(学内活動が組織や他者に与える影響の理解) | | | 3時間 |
| 12 | 主体的行動の実践と原理 | | | 3時間 |
| 13 | リーダーシップの実践実習 | | | 3時間 |
| 14 | 調整役・まとめ役の経験 | | | 3時間 |
| 15 | 学修成果の確認 | | | 3時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| 活動記録(週番作業・協働活動) | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| 活動実績(活動記録)・行動観察評価:100% | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| 『社会人基礎力育成の手引き』 経済産業省 | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| | | | | 花園和年 |

2026専攻科シラバス

| 授業科目名 | 海外研修 | 科目区分 | 総合科目 | |
|--|---|-----------|------------------|--------|
| 履修期間 | 集中講座7日間(年度により異なる) | 履修要件 | 参加費自己負担・最少催行人数あり | |
| 必修・選択 | 選択科目 | 単位数・回 | 1単位 | |
| 設置学科・コース | 全学科 | 対象課程 | 全課程 | |
| 教員 | 石川誠 | 授業担当・外部講師 | 添乗員・現地職能スタッフ | |
| 授業の概要(科目のねらい) | | | | |
| <p>現地のアパレルブランド、デザインスタジオ、プレスルームを訪問し、国際的なグローバル視点でファッション産業の構造を学ぶ。デザインリサーチ能力や創作力を高めることを目的に現地クリエイターやプレス担当者との交流を通じ、基本的な業界英語(または現地語)に触れて、国際コミュニケーション能力の強化。文化施設、美術館などを巡り、デザインソースやトレンドの背景を理解し、自己の創作活動への応用とする。</p> | | | | |
| 到達目標・習得技術 | | | | |
| <p>世界のファッションブランドのデザイン工程・広報戦略を理解。 現地文化の観察を通して、新たなデザインソースを抽出。 自身のクリエイションに研修で得たインスピレーションを活用できる。 研修内容を整理し、レポート・プレゼンテーションとしてまとめられる。</p> | | | | |
| 授業方法・形態 | | | | |
| <p>デモンストレーションからの実習を中心。 プレゼンテーションにおいては、学生同士の相互講評、評価を取り入れる。</p> | | | | |
| 項目 | 授業計画・内容 | | | 課外時数 |
| 1 | ファッションに関する国際感覚の基礎理解の形成 | | | 2時間 |
| 2 | ファッション都市の業界構造理解(産業構造、メゾン、アトリエ、職人、教育機関の関係性)知見の蓄積 | | | 2時間 |
| 3 | 専門領域の焦点化①(世界的メゾン・ブランド研究)知見の蓄積 | | | 2時間 |
| 4 | 専門領域の焦点化②(各自の専門性と結びつけて観察できる領域視点作り) | | | 2時間 |
| 5 | 個人テーマ、フィールドワーク設計(経験準備・主体的な問いの設定) | | | 2時間 |
| 6 | 出発前レクチャー(現地最新ニュース、、交通・安全レクチャー) | | | 2時間 |
| 7 | 出発・現地到着(現地ガイダンス/異文化コミュニケーション) | | | 2時間 |
| 8 | デザインスタジオ訪問(有名ブランド、または新鋭ブランドのデザインスタジオ見学、ワークショップ) | | | 5時間 |
| 9 | プレスルーム・ショールーム・展示会訪問(コレクション見学、ブランドイメージ構築の手法のワークショップ) | | | 5時間 |
| 10 | 文化施設・美術館の見学「ファッション、アート、歴史資料の観察」(例:ルーヴル、V&A、MoMA など) | | | 5時間 |
| 11 | 実践的体験・フィールドワーク(理論と事前理解の現場検証) | | | 5時間 |
| 12 | 経験の再構築「研修内容の資料整理、研修前後比較・分析による考察 | | | 3時間 |
| 13 | 成果物制作(視覚的・論理的表現の検討) | | | 3時間 |
| 14 | 研修を「一過性」としない学習の展開(学修成果の発信) | | | 3時間 |
| 15 | 成果総括(今後の学修・制作への活用、キャリアへの活用計画) | | | 3時間 |
| 終了成果物・修了試験・修了課題 | | | | |
| <p>代理店からの配布資料(デジタル) 現地ワークシート</p> | | | | |
| 評価方法・評価基準 | | | | |
| <p>参加姿勢、提出物、記録ノート:50% 終了レポート:50%</p> | | | | |
| 教科書・参考書・資料・文献 | | | | |
| <p>各国ファッション協会発行メディア(Première Visionなど) 代理店からの訪問先資料</p> | | | | |
| 担当教員の経歴・実務経歴 | | | 教員種別 | 科目所属科長 |
| | | | | 花園和年 |